

物流博物館

NEWS VOL. 12

2012年3月31日発行

鉄道車両の輸送は重量品輸送の一分野ですが、ふだんはレールの上を走っている鉄道車両が道路上を運ばれていくという、不思議な光景が展開されます。今回の特集は、ミニ企画展として開催された鉄道車両輸送の写真展についてご紹介します。

*特集掲載写真の撮影・解説は全て荒川陽太郎氏によります。

*ミニ企画展会期：2012年2月11日～3月11日

*禁無断転載

特集 ミニ企画展
達人写真館

新幹線輸送を撮る！
～鉄道車両輸送に魅せられて～



N700系(九州直通新幹線)S3編成陸送 2010年6月23日撮影 豊橋市内
青白い車体が水銀灯に映える。



開館以来の累計入館者数、10万人を達成！

2011年5月13日、お陰様で1998年8月の開館以来10万人目となるお客様をお迎えすることができました。今後も皆様に楽しんでいただける博物館をめざし、展示内容の充実、物流に親しみのてる催事など、一層の活動の活発化を目指してまいります。今後とも物流博物館をよろしくお願ひ申し上げます。

10万人目入館者となった都立中央・職業能力開発センターの皆様

特集 新幹線輸送を撮る！～鉄道車両輸送に魅せられて～

今回の写真展は、ミニ企画展「達人シリーズ」の第1回目として開催されました。「達人シリーズ」とは、物流ワールドに魅せられて、いろいろな趣味を究める達人の皆さんを紹介していくシリーズ企画で、これから隨時、さまざまな物流をめぐる趣味の達人にご登場いただく予定です。

その第一弾として今回ご登場いただいたのは、鉄道車両輸送撮影の達人、荒川陽太郎さんです。荒川さんは1975年生まれ。こどもの頃から鉄道写真を撮影していましたが、大学院在学中の頃から在来線に加え新幹線を多く撮影するようになり、やがて新幹線の陸送に興味を持ち、社会人になってからは、レール上の新幹線より道路上の新幹線を主な撮影対象にするに至ったといいます。新幹線だけでなく各種鉄道車両輸送の撮影機会も多く、現在では鉄道以外の重量品輸送にも撮影の幅を広げています。

今回のミニ企画展では、2月25日と26日に荒川さんをお招きしてギャラリートークを開催し、撮影にまつわるいろいろなお話を伺いました。新幹線N700系の輸送には49回も立ち会ったという荒川さん。「レールの上を走っているはずの車輛が道路の上にいるというのがいつでも新鮮な驚きだ。駅で見る車両と、道路上の車両はまるで大きさが違う。道路ではいろいろな角度から車両が見えるというのも大きな魅力。新幹線のフォルムに魅せられて写真を撮影しているうち、深夜に人知れず大きな仕事をしている重量品輸送という物流の分野にも興味をもつようになった。撮影の時には、とにかく作業の邪魔にならないように気をつけるのが大前提。」と話してくれました。荒川さんの写真には、その時にさまざまな表情をみせる魅力的な鉄道車両とともに、それを慎重に輸送する物流の仕事の光景が、印象的に焼きつけられています。

(企画担当学芸員：玉井幹司)



100系新幹線陸送
2011年11月11日撮影 尼崎市内



新幹線N700系 交差点をゆく (N700系Z39編成陸送)
2009年7月28日撮影 愛知県・豊橋市内
交差点の雰囲気を大きく取り入れるため、魚眼レンズで新幹線輸送を撮った作品。



新旧バトンタッチの瞬間

2008年5月15日撮影 豊川市、日本車両豊川製作所構内
O系運転台から新製されたN700系Z19編成陸送を見る。



N700系Z1編成1号車陸送
2007年3月23日撮影 豊橋市内
量産車最初のZ1編成の陸送の1号車側。



N700系Z39編成陸送 2009年8月6日撮影 浜松市内
N700系が丸くかわいい感じにデフォルメされた。こんなアングルが撮影可能なもの陸送だけ。

2011年度の物流博物館をふり返って～業務日誌より～

4月

2,16日 高輪伝馬の会
(古文書勉強会)

節電対応のため開館日
変更

5月

13日 入館者10万人
達成

7,21日 高輪伝馬の会

6月

4,18日 高輪伝馬の会

28日 港区立港南小学
校へ出前授業

7月

16日 高輪伝馬の会

23日 なつやすみ
映画会 47名

8月

10日 美術品の梱包・
入門編 21名

13,20日 ダンボール
工作コーナー 248名

9～21日 博物館実習 3名

9月

17日 高輪伝馬の会

10月

15日 ごてんやまファ
ミリーフェスタへ参加

1,29日 高輪伝馬の会

11月

5,19日 古文書講座

12月

3日 古文書講座

10日 高輪伝馬の会

17日 クリスマス・
サンタクロース映画会

1月

7,21日 古文書講座

24日 港区立芝浦小学
校へ出前授業

2月

4日 古文書講座

3月

3,17日 高輪伝馬の会

10月26日～12月20日 企画展「物流写真館一運ぶ風景の時代証言」開催

2月11日～3月11日 ミニ企画展「達人写真館
新幹線輸送を撮る！～鉄道車両輸送に魅せられて～」開催

2011年度・トピックス

企画展開催 物流写真館—運ぶ風景の時代証言—

会期:10月26日～12月20日



仕事の服装 東京・汐留駅 昭和29年（1954） 服装が区々で足元も巻脚絆がなく草履ばきの人もいる。

2011年は、日本にとって今後長く忘れるこのできない年となっていました。3月11日の東日本大震災と、これに続く原子力発電所の事故により、世界の光景は一変してしまいました。物流博物館では4月に写真展を企画していましたが、展示を延期して当初の企画内容を全面的に改めて実施したのが今回の企画展です。今後の日本がどのような方向に進むのか、先の見えない状況を前にして、現在の社会を形作ってきた「今日に至る過去」を、社会の変化を映し出す「物流」という側面から、もう一度見つめ直してみようというのが企画意図でした。写真は高度経済成長期に撮影された収蔵写真を中心に選び、この時代の物流の技術的な変化の歴史を概観できるように配慮するとともに、時代の証言を語りかけてくる写真の声に耳を澄ますことができるよう、構成を模索しました。

（企画担当学芸員：玉井幹司）



大学生向け・夏休み事業①



大学生向け・夏休み事業②



博物館学芸員実習生、3名を受け入れ

実施期間：8月9日～21日

今年も学芸員を目指す大学生を迎えて、実務実習を行いました。実習内容は、開館準備、受付やイベントなど来館者対応、資料整理、展示制作等館務全般にわたります。特に展示制作には時間をかけて取り組み、1階常設展示の一部をリニューアル。一枚のパネルを作るために、何回も文章やデザインを考え直しました。ご来館の際は是非、実習の成果をご覧ください。



夏休み・冬休み 親子で楽しむイベントが好評！

こどもたちの休みにあわせて、親子で楽しめるイベントを開催しています。夏には映画会とダンボール工作コーナー、冬にはプレゼントを「運ぶ」サンタクロースの映画会を実施。楽しく「運ぶ」を身近に感じるイベントは、毎回ご好評をいただいています。

左：自分だけの運ぶ乗り物を作る、ダンボール工作コーナー 実施日：8月13・20日

右：クリスマス・サンタクロース映画会 実施日：12月17日

地域のイベント ファミフェスに参加！

実施日：10月15日 会場：品川区立御殿山小学校

2001年から開催されている「おやこであそぼうごてんやまファミリーフェスタ（ファミフェス）」にスタート以来毎年出展しています。こどもたちをはじめ地域の方々と交流のもてる貴重な機会です。館内でも人気のダンボール工作コーナーや、引越トラックの荷台に乗ることが出来る体験など、プロロジス殿・日本通運殿からのボランティアでの協力を得て4ブースを出展。

特にプロロジス殿には、ファミフェス当日のご参加以外にも、事前準備の工作キットの作成や、館内でお土産にお渡ししているオリジナル菓の作成など、定期的に会社を挙げてのボランティア活動としてご協力いただいています。



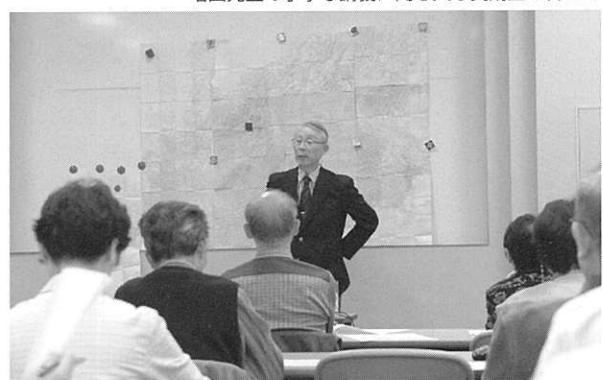
左：ダンボール工作コーナー 熱心に作業するこどもたちとプロロジス社員の方
右：引越できる引越トラック体験 日通ドライバーのお兄さんと一緒に

人気講座紹介～古文書講座～

講師：増田廣實先生 実施期間：11月5日～2月4日（全6回）

物流博物館の古文書講座は、初級～中級程度の読解力のある方を主な対象とし、単に古文書を読むだけでなく、史料から読み取れる歴史的背景について詳しく講師に解説をしていただくという形式をとっています。つまり、テキストの本来的な読解に力点をおいた古文書講座であり、内容は歴史講座に近いものといえるかもしれません。

今回も、元交通史研究会（現・交通史学会）会長の増田廣實先生に講師をお願いし、テキストは山梨県に残る「甲州文庫」の史料の中から、甲府の荷継問屋・高橋平右衛門が記録した史料を取り上げ、解説していただきました。近世・近代移行期において、甲府の荷継問屋がさまざまな輸送ルート・運賃・期間の情報を収集して比較検討を行っている様子、中央内陸部の広大な範囲におよぶ牛馬背や人担などによる陸運の実態や、水運と接続してさまざまな輸送ルートが形成されている様子などについて、史料を通して興味深いお話を伺うことができました。



財団法人利用運送振興会のあゆみ～4月1日に公益財団法人に移行します～

当館を運営する財団法人利用運送振興会は、2012年4月1日に公益財団法人へ移行することとなりました。これを記念し、74年にわたる財団のあゆみをご紹介したいと思います。



小運送教習所
東京市神田区和泉町
昭和15年(1940)頃



五反田の早川学寮(左)
と通運学寮(右)
昭和31年(1956)



秋葉原・日通本社内の
通運史料室を見学する
小学生たち

[1. 共済事業・小運送教習所運営時代]

昭和13年（1938）、財小運送協会として日本通運（株）の出捐により小運送およびこれに関連する業務に従事する者の知識技能の向上、徳操の涵養、福祉の増進を図ることを目的として設立。当初、従業員の災害・傷害疾病等に対する共済事業を行う共済部を、昭和15年に従業員の知識・技能の向上を図るために小運送教習所を設立。戦後は昭和23年（1948）に共済部を廃止、小運送教習所も同25年に業務が日本通運による業務研究所として拡大発展したため閉鎖となり、財団としての新たな事業展開を迫られました。

[2. 学寮運営時代～物流史料館運営時代]

新たな事業として通運従業員の子弟のための学生寮運営を行うこととなり、昭和30年（1955）に「早川記念学寮」（東京都品川区五反田）を、翌31年「通運学寮」、同32年「安座上学寮」を同一区域内に建設。同33年には「関西通運学寮」（大阪府茨木市）、同35年には「国立学寮」（北多摩郡国立町）を建設、以後、平成元年に全ての学寮が閉鎖されるまで、学寮運営は財団の主要業務として位置づけられました。また、昭和39年（1964）には日本通運創立30周年記念事業として行われた流通経済大学の設立を同社から依頼され、同大学の創立・発展に寄与しました。しかしながら、学寮運営に関しては、施設の老朽化、入寮希望者の減少などにより見直しを余儀なくされます。これを受け新たな事業展開として、日通本社内にあった通運史料室を発展させる形での新史料館建設とその運営が検討されました。昭和62年（1987）に通運史料室の運営を日通から委託され、同史料室を物流史料館と改称、この運営を行いつつ新史料館建設について検討・準備が行われました。

[3. 物流博物館運営時代]

平成5年（1993）に現在の博物館用地を日本通運から取得、同8年には建築設計・展示設計に着手、名称を「物流博物館」とすることが決定し、こどもたちを含め広く一般に物流を紹介することを主な目的とした博物館建設に向けて具体的な準備作業が開始。翌年に新博物館建設着工、展示制作に着手し、同10年（1998）3月竣工。平成10年8月11日に物流博物館が開館。物流博物館開館後は、同博物館の運営を財団の主要業務と位置付け、平成20年（2008）には同博物館の開館10周年を機に常設展示のリニューアルを実施、現在に至ります。

2011年度の学校見学

2011年度の学校団体入館者データ

小学校：15校・1,181名 / 中学校：20校・314 / その他学校：38校・553名

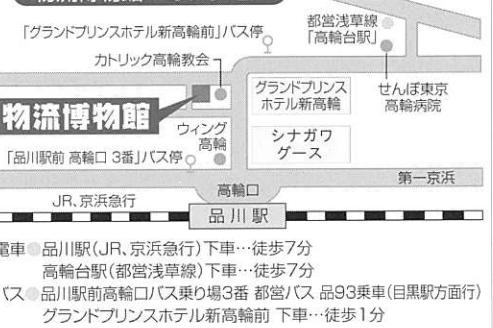
当館では団体見学の場合、映像上映、展示解説、体験などを組み合わせたプランをご提案しています。今年度は詳細をご紹介した「先生のための物流博物館団体利用ガイド」を新たに発行しました。見学プランや展示室の様子、映像、体験キットなどがご覧いただけます。学校のみならず地域の集まりや、ボースカウトなどでの見学のプラン作成にもお使いいただけます。

ご希望の方には無料でお送りいたしますので、お気軽にお問い合わせください。



物流博物館のご案内

物流博物館へのアクセス



所在地 〒108-0074 東京都港区高輪4-7-15 Tel 03-3280-1616 Fax 03-3280-4385 http://www.lmuse.or.jp 開館時間 午前10時～午後5時
休館日 每週月曜日及び毎月第4火曜日（但し祝日・振替休日の場合はその翌日）、祝日の翌日（土日を除く）、年末年始
入館料 小中学生：100円（土曜日無料）高校生以上：200円 ※学校関係の団体は入館料が免除になります。